

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	ひらお・みんなの家		
所在地	熊本郡平生町堅ヶ浜西414		
電話番号	0820-56-0408	事業所番号	3577300308
法人名	平生町社会福祉協議会		

訪問調査日	平成 20 年 11 月 27 日	評価確定日	平成 21 年 1 月 23 日
評価機関の名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	7 人
職員数	10 人	常勤	8 人 非常勤 2 人 (常勤換算 9.2 人)

(2) 建物概要

建物構造	一戸建て 平屋	造り
	1 階建ての	~ 1 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 4,000 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	無
食費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	400 円	おやつ	0 円
その他の費用	月額	20,000 円		
	内訳	光熱水費 12,000 円	その他の日常生活費 8,000 円	

(4) 利用者の概要 (10月20日現在)

利用者数	6 名	男性	0 名	女性	6 名
	要介護 1	1	要介護 4	1	
	要介護 2		要介護 5		
	要介護 3	4	要支援 2		
年齢	平均 82.6 歳	最低	66 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医科 向井医院、増本クリニック 歯科
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

服薬の時には、利用者一人ひとりの食事のペースに合わせ、食べ終えると「お薬ですよ」と声かけし白湯でゆっくりと服用の支援をされています。帰宅されたくて外に出られたら、一緒に歩いて自宅までお連れしたり、共用デイサービスの送迎を利用して、数時間、家族と過せるような支援もされており、利用者や職員との心と心関係が築かれて、日常が穏やかに過せる場となっています。部内研修が充実しており、外部研修の復命は、全職員が参加出来るように2日間で開催され、職員が働きながらトレーニングしていけるようにして、職員を育てておられます。

(特徴的な取組等)

夜間は夜勤者と宿直員の2名での体制作りがされています。法人内の職員が交代で宿直勤務に当たっておられるので、利用者との顔馴染みの関係もできており、また、夜勤者の安心にもつながっています。利用者が散歩に出かけ疲れてしまい、歩いて事業所に帰れなくなったときは、法人内の他事業所からの応援で車で迎えに来てもらえることもあり、連携ができており柔軟に対応しておられます。サービスモニター(3名)が設置され、家族や利用者からの意見や苦情が引き出せるよう工夫しておられます。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

前回の評価結果を受けて、家族向け通信を4ヶ月に1回発行することにされ、第1号を9月に送付されています。できるところから改善に取り組まれています。

(今回の自己評価の取組状況)

職員全員に説明され、管理者と計画作成担当者を中心にまとめられ、全職員で再確認され、最終的にまとめて作成されています。日々のケアの振り返りとなり、サービスの見直しをされています。

(運営推進会議の取組状況)

民生委員、自治会長、家族、町担当課職員、地域包括支援センター職員、社会福祉協議会会長、社会福祉協議会局長、職員で定期的に開催されています。ホームの状況や業務報告、評価結果の報告をし、参加者から意見や要望を聞かれサービスに活かされています。消防署の人の参加があった時に災害時の避難方法の検討をされています。

(家族との連携状況)

面会時に日々の様子を伝えたり、意見を聞かれたり、電話で定期的に連絡をされています。家族向け通信を発行し家族に送付され、花火大会への参加を呼びかけておられます。

(地域との連携状況)

町の花火大会、秋まつりや町内で行なわれる健康診断に行き、地域の人々と交流されています。散歩のときは、よく声がかかり、野菜の差入れもあります。月に2回、近くの高校生の訪問があり、利用者は会話を楽しまれています。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組みを期 待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	法人の理念を基に、事業所独自の理念をスタッフ一同で話し合い作っている。地域密着型サービスとしての理念は検討中である。	
2 (2)	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念を共用空間に掲示し、毎朝のミーティング時に確認し、職員全員で共有し、実践に向けて取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
3 (7)	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町の花火大会には、家族にも呼びかけ一緒に参加し、秋まつりや町内での健康診断に行き、地域の人々と交流している。散歩の時には地域の人からの声かけや野菜のおすそ分けがあり、日常的に地域の人々との交流に努めている。自治会の除草作業には職員が参加している。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
4 (9)	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義を理解し、自己評価は職員全員に説明し、管理者と計画作成担当者を中心にもとめ全員で再確認を行なっている。日々のケアの振り返りとなり、サービスの見直しをしている。前回の評価結果については、ホーム便りを年4回発行するなど、できるところから改善されている。	
5 (10)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	民生委員、自治会長、家族、町担当課職員、地域包括支援センター職員、社会福祉協議会会長、社会福祉協議会局長、ホーム職員等のメンバーで定期的に関催している。ホームの状況、業務報告や、評価結果の報告をし、参加者から意見・要望を聞いてサービスに活かしている。消防署の人の参加時に、災害時の避難方法の検討を行なっている。	
6 (11)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	制度のことやサービスについての相談をしたり、助言をもらうなど、常に連携をとりサービスの質の向上に取り組んでいる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	面会時に日々の様子を伝えたり、電話で定期的に報告している。家族向け通信を4ヶ月に1回(9月より)発行し、ホームでの一日の流れや行事報告、行事予定を知らせている。利用者一人ひとりに合わせた定期的な報告はしていない。	・個々に合わせた定期的な報告の工夫
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	苦情受付窓口、担当者、外部機関を明示している。第三者委員として社会福祉協議会で公募し選ばれたサービスモニター(3名)を設置し、家族の意見や苦情を引き出すように工夫している。苦情処理の手続きを明確に定めている。	
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	日中は3名の職員を配置し、夜間は夜勤者と宿直員の2名での体制作りができており、夜間勤務する職員の安心につながっている。法人内の他の事業所とも連携ができており、柔軟な対応が可能である。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動は最小限にしている。法人内の職員が交代で夜間の宿直勤務をしたり、日中も応援勤務で利用者と顔馴染みの関係ができており、利用者へのダメージを防ぐ取り組みになっている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人研修、部内研修、課内研修を計画的に実施している。外部研修は参加の機会を勤務の一環として提供している。参加した職員は研修報告をするために2日間日程を設けて部内研修を行ない、全員参加で共有している。働きながらトレーニングができるよう取り組んでいる。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会に加入し、勉強会に参加したり、他のグループホームと交流し、情報交換をして、サービスの質の向上に努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期 待した 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>入居前に自宅を訪問し、本人や家族から聞き取りしたり、事業所の見学をしてもらっている。事業所内の共用デイサービスやショートステイを利用してもらい、馴染みの関係づくりをしてから利用するようにしている。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>一人ひとりに寄り添い、共に日々の暮らしの中で、朝食や夕食の下ごしらえや味付け、おやつ作りなどや、掃除、散歩など一緒に行ないながら、学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日々のかかわりや会話の中で、言葉や表情、態度から思いを把握し、朝礼やミーティング等で共有し、本人本位に検討している。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>職員全員で2ヶ月に1回カンファレンスを行い、日常のかかわりで把握している。利用者の思いや課題、面会時や電話等で聞きとった家族の意向、受診時に聞いたかかりつけ医の意見などを参考に話し合い、介護計画に反映し作成している。</p>	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>6ヶ月に1回見直しをしている。状態に変化があった場合は、その都度関係者で話し合い、見直しをして、新たな介護計画を作成している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>医療連携体制を活かし、内科医や精神科医の往診が受けられる支援をしている。共用デイサービスやショートステイも行き地域の人の利用の支援もしている。自宅へ帰りたい希望者の送迎、寺へのお参りなどの個別の外出支援をしている。受診時の付き添い支援もしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医への受診は、家族と職員も付き添い医師に情報を提供している。家族のみが付き添う場合は、状態を記し医師に渡している。内科医(週1回)、精神科医(2週間に1回)の往診があり、適切に医療が受けられるよう支援している。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時に説明を行い、指針に沿って対応を主治医、家族を含めて検討する体制作りをしている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	「人として人を大切にするプロフェッショナルを目指す」という法人の理念を基に、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしていない。方言を交えながらの丁寧な言葉づかいであった。個人記録は適切に保管している。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースを大切に、希望を聞いて散歩やレクリエーションへの参加を呼びかけている。無理強いせず、一人ひとりに合わせた支援をしている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	朝食の時間は時間帯が利用者によって異なるため、個別に対応し、夕食は地域の人からの差入れの野菜や、ホームの畑で収穫した旬の野菜等を利用して調理し、職員も一緒に食事をしている。昼食は配食を利用している。できる人は後片付けを一緒にし、食事を楽しめるよう支援している。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	午前中の中入浴であるが、拒否がある場合は、時間を置き再度声をかけ希望やタイミングに合わせて、時間帯を変更して入浴ができるよう支援している。毎日入浴可能でゆっくり入れるよう支援している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	散歩、ドライブ、歌、読書、縫い物、洗濯物を干したり、たたんだり、部屋の掃除をしたり、張り合いや気晴らしになるよう支援している。居室でテレビをみたり、般若心経をとこなえる人もあり、利用者がその人らしく日々を楽しめるよう支援している。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	近隣の散歩は毎日行い、ドライブも楽しんでいる。共用デイサービスの送迎時に帰宅願望のある利用者の自宅までドライブし、自宅で少し過ごせるよう支援している。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	部内研修で身体拘束について研修し、全職員が理解し、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。スピーチロックには特に気をつけている。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中、玄関、居室とも鍵をかけていない。外出傾向のある人については、一緒に散歩して対応している。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	転倒等、それぞれのマニュアルがあり、研修を行ない、職員全員が理解している。ヒヤリはっとの事例は、ミーティングで話し合い、再発防止のための対策を検討して、一人ひとりの状態について介護記録に記入し、介護計画に反映して事故防止に取り組んでいる。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急連絡網を整備し、緊急時の対応マニュアルで研修を行ない、ホーム内にAEDを設置し、全職員が訓練している。夜間は夜勤者の他、宿直員があり、日中は法人の他事業所の応援体制ができています。	
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の協力で避難訓練を実施している。散歩の時に避難場所の確認をしている。運営推進会議で民生委員との連携は取れているが、地域への働きかけはしていない。	・地域の人の協力を得るための働きかけ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬の処方箋を個々の介護記録にファイルし、目的、副作用等について、職員は把握している。服薬は、一人ひとりの食事の終わった時を見計らい、声かけをしてから、ゆっくりと白湯で飲んでもらい服用を確認している。必要な情報は往診時、通院時に医師にフィードバックしている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、一人ひとりに応じた口腔ケアの支援をしている。義歯の洗浄、保管についても支援している。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分摂取量を個別に記録している。状況に応じて、きざみやおかゆなど形体を変えて対応している。昼食は配送サービスであるが、朝・夕の食事の献立については法人内の栄養士が確認し助言している。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルを整備し、職員全員が研修を受け、理解しており、手洗いやうがいの励行など予防を実行している。利用者、職員共にインフルエンザの予防接種を受けている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	古民家を活用したホームで、利用者にとって住み慣れた自分の家のような感覚で親しみやすい環境である。居間からは庭の紅葉や、畑が見えたり、洗面所に季節の花が飾られ、季節感がある。ソファで利用者同士がおしゃべりしたり、テレビをみたり、くつろげる居場所があり、居心地よく過ごせるよう支援している。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの使い慣れた家具が持ち込まれ、写真やぬいぐるみが飾られ、居室で居心地よく過ごせるよう工夫している。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	ひらた・みん家の家
所在地	熊毛郡平生町大字野ノ浜 414
電話番号	0820-56-0408
開設年月日	平成12年4月1日

【サービスの特徴】

お客様を一人ひとりの思いを汲み取り、穏やかに安心して暮らせる環境づくりに努めています。お客様から寄せた感想は「一瞬、一瞬と大切に、その機会を積み重ねて行きたいと思っています。また「自己決定の質と量」を増やすサポートを心がけています。

【実施ユニットの概要】 (10月20日現在)

ユニットの名称						
ユニットの定員	6名					
ユニットの利用者数	6名		男性	0名	女性	6名
	要介護1	1		要介護4	1	
	要介護2			要介護5		
	要介護3	4		要支援2		
年齢構成	平均	82.6歳	最低	66歳	最高	92歳

【自己評価の実施体制】

実施方法	管理者、計画作成担当者を中心に職員と協力して行う。
評価確定日	平成20年11月27日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	組織経営理念を基にスタッフ一同で話し合いグループホームの理念を作っている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	組織の経営理念、グループホームの理念を明文化しており、朝礼時、ミーティング時に確認。理念に添った対応に取り組んでいる。	
3	<input type="checkbox"/> 運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。	事務所に提示。	
4	<input type="checkbox"/> 運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。	ケアカンファレンスの開催。ミーティングの実施。	
5	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	GH運営推進会議の実施。	
2. 地域との支えあい			
6	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえそうな日常的な付き合いができるよう努めている。	プライバシーに配慮し交流は少ないが、畑で収穫された野菜のお裾分けや、散歩時の声かけは日常的にある。また、職員への用事で立ち寄られることはよくある。	
7	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会の除草作業、盆踊り。 町の花火大会。	
8	<input type="checkbox"/> 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	自治会長、民生委員のかたがたと連携を図り、近隣のお一人暮らしの方の状況の把握。見守りなどおこなう。また、いつでも相談に来られるような雰囲気作りに努める。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価、外部評価結果を話し合い、自分達のサービスを振り返り課題を確認。サービスの見直しをしている。	
10	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	報告や話し合いを行い、ご意見を戴いたことをスタッフに報告サービスに結び付けている。	
11	○ 市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	常に連携をとり、サービスについても相談。アドバイス等を戴き役に立てるよう努力している。	
12	○ 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会が少なく、スタッフが理解しているとは思えない。	○ 引き続き、研修の機会を確保したい。
13	○ 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待と思われないようなことも見過ごさないように確認しあっている。	
4. 理念を実践するための体制			
14	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居の決定前に家族と十分に話し合い、質問を受けるようにしている。ご理解、納得をいただいた後に契約を結ぶ。	
15	○ 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	公的窓口の紹介を行っている。サービスモニターの方々に訪問してもらいご意見を着ていただいたり、雰囲気等を見ていただきサービスに反映する。	○ ご自分の意志を伝えられない方のご意見をどう受け止めるかが課題である。
16	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	面会時の声かけ、定期的な連絡を行っている。また、介護者通信を発行し、日頃の様子を報告している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	<p>○<u>情報開示要求への対応</u> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。</p>	○	開示情報の確認を定期的に行う。
18	<p>○<u>運営に関する家族等意見の反映</u> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。</p>		
19	<p>○<u>運営に関する職員意見の反映</u> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>		
20	<p>○<u>柔軟な対応に向けた勤務調整</u> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>		
21	<p>○<u>職員の異動等による影響への配慮</u> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	○	一定の職員だけで閉塞的にならないようにしなければならないと思っている。
5. 人材の育成と支援			
22	<p>○<u>職員を育てる取り組み</u> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		
23	<p>○<u>職員配置への取り組み</u> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。</p>		
24	<p>○<u>同業者との交流を通じた向上</u> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○<u>職員のストレス軽減に向けた取り組み</u> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>		
26	<p>○<u>向上心を持って働き続けるための取り組み</u> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>		
27	<p>○<u>職員の業務に対する適切な評価</u> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	<p>○<u>初期に築く本人との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	○	ご本人の思いを受け止めることが難しい場合もある。傾聴にこころがけたい。
29	<p>○<u>初期に築く家族との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	○	ご本人とご家族の思いの違い等状況の判断に努めたい。
30	<p>○<u>初期対応の見極めと支援</u> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>		
31	<p>○<u>馴染みながらのサービス利用</u> 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32	<p>○<u>本人と共に過ごし支えあう関係</u> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>		ご本人のご意見は必ず伺う。役割を作っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	○ <u>本人を共に支えあう家族との関係</u> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
34	○ <u>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</u> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。		
35	○ <u>馴染みの人や場との関係継続の支援</u> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		
36	○ <u>利用者同士の関係の支援</u> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		
37	○ <u>関係を断ち切らない取り組み</u> サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38	○ <u>思いや意向の把握</u> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	○	職員の把握する力にばらつきがある。聴くこと、見るのがの大切さを伝えたい。
39	○ <u>これまでの暮らしの把握</u> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
40	○ <u>暮らしの現状の把握</u> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	○	学んだことを、これから実践にいかしていけるようにしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41	<input type="checkbox"/> チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	<input type="checkbox"/> ケアカンファレンスを実施。職員一人ひとりをご本人に関わる問題を共有し介護計画を作成している。	
42	<input type="checkbox"/> 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	<input type="checkbox"/> そのつどの話し合いの機会を持って計画に反映するよう努めている。	
43	<input type="checkbox"/> 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	<input type="checkbox"/> 日頃の個別記録を詳しく記述することにより、介護計画へ反映するよう努めている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44	<input type="checkbox"/> 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	<input type="checkbox"/> 出来ることは応じている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	<input type="checkbox"/> 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	<input type="checkbox"/> 近隣の高校生より依頼があり、ご家族の承諾を得てボランティアとして来ていただいた。	
46	<input type="checkbox"/> 事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	<input type="checkbox"/> 相談対応、研修の受け入れは行っている。	
47	<input type="checkbox"/> 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	<input type="checkbox"/> 事業所連絡会への参加。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>○<u>地域包括支援センターとの協働</u> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>		
49	<p>○<u>かかりつけ医の受診支援</u> 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>		
50	<p>○<u>認知症の専門医等の受診支援</u> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>		
51	<p>○<u>看護職との協働</u> 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>		
52	<p>○<u>早期退院に向けた医療機関との協働</u> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>		
53	<p>○<u>重度化や終末期に向けた方針の共有</u> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>		
54	<p>○<u>重度化や終末期に向けたチームでの支援</u> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	○	無理をしないよう「出来ること、出来ないこと」を見極めたい。
55	<p>○<u>住み替え時の協働によるダメージの防止</u> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
56	<input type="checkbox"/> プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	<input type="checkbox"/> 自尊心を大切にされた声かけ等は職員同士でも気を付け合っている。	
57	<input type="checkbox"/> 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	<input type="checkbox"/> 自己決定を促す声かけ等に努めている。	
58	<input type="checkbox"/> “できる力”を大切にされた家事への支援 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。	<input type="checkbox"/> 出来ることを見極め、失敗されないように配慮している。	
59	<input type="checkbox"/> 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している。	<input type="checkbox"/> お一人お一人のペース最優先ではあるが時には妥協していただくこともある。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	<input type="checkbox"/> 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	<input type="checkbox"/> ご家族と協力、行きつけの理、美容院を利用してもらっている。	
61	<input type="checkbox"/> 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	<input type="checkbox"/> 朝食は、お一人お一人の時間帯が様々なため一定していない。昼食は職員は休憩をかねて別室へ、夕食は一緒に食事をしている。	
62	<input type="checkbox"/> 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。	<input type="checkbox"/> お一人お一人の嗜好を把握、支援している。	
63	<input type="checkbox"/> 気持ちのよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	<input type="checkbox"/> 排泄パターンの把握、ご本人の様子をよく見る。濡れない排泄介助を目指している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	<p><u>○入浴を楽しむことができる支援</u> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>	○	<p>デイサービスの時間に合わせて午前中に入浴していただいている。今はそれが生活リズムとして受け入れていただいているが不満とならないよう状況の確認はしてい</p>
65	<p><u>○安眠休息の支援</u> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66	<p><u>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</u> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>		
67	<p><u>○お金の所持や使うことの支援</u> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>		
68	<p><u>○日常的な外出支援</u> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>		
69	<p><u>○普段行けない場所への外出支援</u> 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>		
70	<p><u>○電話や手紙の支援</u> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>		
71	<p><u>○家族や馴染みの人の訪問支援</u> 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>		
72	<p><u>○家族の付き添いへの支援</u> 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。</p>		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
73	○ <u>家族が参加しやすい行事の実践</u> 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	お花見や花火大会の参加を募り、御家族にも参加していただいている。	○	お花見等への声かけを考えているが、これがない家族の方もおられ、お一人お一人が寂しい思いをされないように配慮する。
(4)安心と安全を支える支援				
74	○ <u>身体拘束をしないケアの実践</u> 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	拘束についての共通理解をもち取り組んでいる。また、部内研修で学ぶ機会を設けた。		
75	○ <u>鍵をかけないケアの実践</u> 運営者及び全ての職員が、居室や口中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵は掛けない。居室に鍵を付けている部屋もあるが、ご本人の希望によるものである。ご自分が室外におられるとき鍵を掛けることで安心しておられるため。		
76	○ <u>利用者の安全確認</u> 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	様子確認のための見守りを室外から行っている。		
77	○ <u>注意の必要な物品の保管・管理</u> 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	ご本人の状況把握に努め取り組んでいる。		
78	○ <u>事故防止のための取り組み</u> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ご本人の状況把握に努め取り組んでいる。		
79	○ <u>急変や事故発生時の備え</u> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急連絡簿の整備。緊急時対応マニュアルの作成し、共通理解に努めている。	○	研修会の実施は定期的に行いたい
80	○ <u>再発防止への取り組み</u> 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	各報告書の提出。それによるミーティングを行う。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81	〇災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練を行う。民生委員との連携を推進会議等でとっている。		
82	〇リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	ご家族とその都度話し合いの機会を設けている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
83	〇体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	朝礼時の報告で共有している。気づきのあったときは主任に報告し、状況を確認して全員が把握するようにしている。		
84	〇服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	主治医の処方箋を提示。薬の目的を理解する。気づき等の情報はご本人の様子を確認し、定期的また必要のあるとき連絡をする。		
85	〇便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	水分補給、繊維質の食物等工夫を心がけている。		
86	〇口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	状況に合わせて声かけしている。		
87	〇栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	記録し確認している。		
88	〇感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	研修会等で予防、対応についての知識を深め実行している。		
89	〇食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	衛生担当職員による指導をその都度受けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
90	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	古い民家であり、普通の家として親しみやすい。	
91	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	花や季節のものを取り入れている。	
92	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	お一人おひとりの思いを大切に配置している。	
93	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人の馴染みのものを持参していただいている。	
94	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	こまめな換気に配慮している。	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	むかしの建物であり、バリアフリーもなされていないため見守りは徹底している。	
96	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	ご本人が自信を持てるような声かけ、失敗体験をしないように配慮している。	
97	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	テラスを設置、気候のよいときはテラスでの談笑を楽しんでいただいている。庭に花や野菜を植え、皆さんで育てるなどしている。	○ 外に出られる方が決まってしまうのが課題。思いを大切にしながら出来るだけ全員参加になるよう声かけに工夫したい。

項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
V. サービスの成果に関する項目	
98 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input checked="" type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
99 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input checked="" type="radio"/> ①毎日ある <input checked="" type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ④ほとんどない
100 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
101 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
102 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
103 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
104 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
105 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等と <input checked="" type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
106 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input checked="" type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ④ほとんどない
107 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input checked="" type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ④全くいない
108 職員は、生き活きと働いている。	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input checked="" type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
109 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
110 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input checked="" type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない